

地域の幼保小が一緒に取り組む連携

年長&1年／教職員

ねらい

- ・教師と保育者が、幼児期の育ちや小学校での学び、接続期について、互いの教育を知り、地域の子どもたちを共に育てる。
- ・幼保の横のつながりをもち、交流を通して互いに刺激を受け、遊びや学びを豊かにする。

実践の概要

幼稚園・地域の保育所・小学校1年生の交流

地域でのつながりをつくるのが幼保小連携に必要なと考え、近隣の保育所にも声を掛けて一緒に取り組んでいます。

○5月（小学校グラウンド）

運動会のよさこいの練習を見て、一緒に踊る。

○11月（小学校体育館）学習発表会の練習を見る

○12月（小学校体育館）生活科『おもちゃランド』で交流



1年生
かっこいい!

25 ページ

幼稚園・保育所の交流

小学校で1年生のよさこいを見たあと、幼稚園から保育所に声を掛け、幼児教育施設同士の横の連携を進めることにしました。

○6月（保育所園庭）

私たち同じ小学校に行くんだね!

互いの園で踊っているよさこいを見合う・一緒に集団遊びをする。

○10月（幼稚園園庭）

互いの園で楽しんでいる遊びを紹介し合い、一緒に遊ぶ。



実践のポイント

教師の援助

※共通指導案 25 ページ

- ・*共通指導案で共有したねらいや内容、援助を踏まえ、幼児の遊びや関わりを支える。
- ・自園以外の幼児に積極的に言葉を掛けて、「一緒に楽しもう!」という雰囲気をつくる。

工夫した環境や教材など

- ・触れ合いや言葉のやりとりなど、関わりをもちやすい内容の遊びを取り入れる。



ココが良かった!

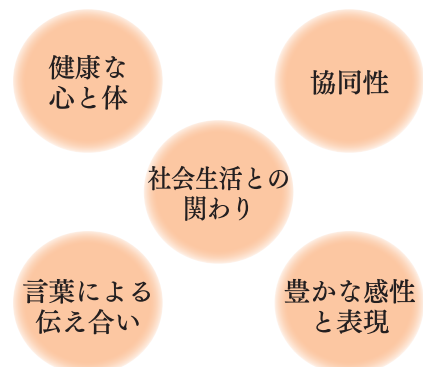
幼児・児童

- ・交流が刺激となり、遊びの広がりや発展が見られた。また同年代の子ども同士が言葉でやりとりしたり、自ら相手と関わったりするなど人間関係の広がりにつながった。

教師・保育者

- ・打合せの中で、園・学校の子どもたちのよさや課題に感じることを共有することにより、指導に生かす機会となった。
- ・互いの教育を知り、小学校への滑らかな接続（どのような経験や育ちをつなげると良いか）について話し合うことができた。
- ・幼保の横のつながり、幼保小の縦の連携ができ、地域で子どもたちを育むための土台となった。

育まれている10の姿



地域の教育・保育施設がつながって－菊水・米里地区教育機関連絡会－ 幼児／教職員

ねらい

- ・菊水・米里地区に住む子どもたちを地域全体で育てるという理念のもと、「0歳から15歳まで」を合言葉に乳幼児期から中学校段階までの15年間の育ちを見据えた連携の充実を図る。

参加機関

	幼児期	小学校	中学校
	菊水元町保育園 認定こども園菊水元町第二保育園 菊水いちい認定こども園 札幌市立きくすいもとまち幼稚園	札幌市立菊水小学校 札幌市立米里小学校	札幌市立米里中学校 構成メンバー 園長、副園長、主任 校長、教頭、教務主任等

内容

13年前に発足し、年に2～3回（6月・2月他）開催しています。中学校が主体となって連絡会を企画し、地区の教育機関に呼びかけ、連携活動の予定や地区で共有したい事柄などについて討議し、地域で子どもたちの育ちを支えています。

令和5年度はコロナ禍を経た久しぶりの開催だったため、互いの教育活動を知ること、子どもや教職員の交流等について希望すること等について意見交流することを目的としました。

各機関の子どもたちの様子や活動、行事の予定などを発表し合い、現状を共有したあと、事前に各施設の状況を取りまとめた「連携活動一覧表」をもとに連携内容を加えるなどしました。



参考：連携活動一覧表

討議・共有内容

各教育機関の活動状況交流

- ・教育活動における重点など
- ・予定している幼・保・小・中の連携活動

討議したい内容（各機関の要望）

- ・各教育機関の行事参加や職員交流
- ・中学校教諭の小学校への出前授業
- ・小学校1年生担任の年長保育参観研修
- ・小学校2年生の生活科校区探検による幼保との交流
- ・幼保の中学校との交流

ココが良かった!

- ・札幌市の幼保小連携推進協議会が目指す、中学校区の自発的な連携の形が4年ぶりに再開し、地域のつながりを再確認することができた。
- ・設置主体や施設類型に関わらず、公立・私立の教職員がつながることの意義と必要感をもって取り組んでおり、「連携することがあたりまえ」という風土が醸成されている。
- ・公立の幼・小・中では、この連絡会をさらに発展させ、コミュニティスクールとして位置付けていきたいと考えており、その思いを参加者で共有することができた。